

第 131 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 3 年 11 月 11 日(木)13：15～14：15

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題>

- ◇ 議題（1）年末年始の感染対策のための第 3 波振り返り（案）について検討した結果、内容及びデータの追加等について一部修正を行い、公表することを確認した。

<その他>

- ◇ 総括情報部より、国の新型コロナウイルス感染症対策分科会が示した「新たなレベル分類の考え方」について報告があった。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、金城 知事公室長、池田 総務部長、松永 企画振興統括監、松田 環境部長、小林 県警警備部長、大城 保健医療部長、座安 生活企画統括監、下地 農政企画統括監、島袋 土木建築部長、下地 産業振興統括監、宮城 文化観光スポーツ部長、大城 会計管理者、佐次田 教育管理統括監、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、諸見里 医療企画統括監、糸数 技監兼保健衛生統括監、高山 政策参与、
テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

（1）沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

- ✓ 11/10 の新規発生 5 名、合計 50,284 名、入院中 7 名、うち重症 1 名、うち中等症 4 名、入院・療養等調整 16 名、宿泊施設療養中 10 名、自宅療養 36 名で療養中患者計 91 名となっている。

（2）米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から、米軍基地内における発生状況について報告。【資料 2】

11/10 時点、米軍基地内で 0 名。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1~3-11】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
 - ✓ 療養者数及び新規感染者数は第 3 段階にある。
 - ✓ 感染経路不明な症例の割合は第 2 段階にある。
 - ✓ 病床占有率、重症者用病床占有率、新規 PCR 検査の陽性率は第 1 段階にある。
 - ✓ 国の判断指標では、入院率がステージⅣ相当となっている。
 - ✓ その他の療養者数、病床占有率、重症者用病床占有率、新規感染者数、感染経路不明割合、PCR 陽性率については、ステージⅠ or Ⅱ相当となっている。
 - ✓ 医療ひっ迫に関する指標で見ると、入院率は悪化、重症者数は増加、中等症者数、自宅療養者数及び入院等調整中の数の合計値は減少となっている。
 - ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は、2.76 で、全国ワースト 3 位の状況。
 - ✓ 各市町村については感染拡大の基準である、人口 10 万人あたりの新規陽性者数 25 人を超えた自治体は確認されていない。ただし、うるま市、与那原町では人口 10 万人あたりの新規陽性者数が 14 人を超えており、比較的高い数値となっている。
 - ✓ うるま市については、中部保健所と連携して集団検査を実施するなどの対応を検討中である。
 - ✓ 10/31 の週の飲食店が推定感染源となっている感染者数は、6 人となっており、2 週連続で増加している。
 - ✓ 先週に引き続き、移入例の陽性者は確認されていない。
 - ✓ 沖縄県疫学統計・解析委員会の報告によると、直近の実効再生産数は沖縄本島

0.84、宮古0.28、八重山0.09となっており、沖縄本島では陽性者の減少速度が鈍化している。

- ✓ 地域別では、中部保健所管内で増加に転じており、地域流行が再燃している可能性がある。
- ✓ 今週の陽性者数については、減少もしくは横ばいで推移すると推定される。

(4) 宿泊施設の運用状況について【資料4】

- 総括情報部より、宿泊施設の運用状況について報告。
 - ✓ 那覇市は3カ所が稼働しており、合計3人が療養中である。
 - ✓ 中部では1カ所が稼働しており、7人が療養中である。
 - ✓ 北部、宮古、八重山については、宿泊施設での療養者は0人となっている。

(5) 沖縄県人口変動状況について【資料5】

- 総括情報部から、KDDI Location Analyzerによる分析結果を報告。
 - ✓ 繁華街エリア、商業エリア、空港エリアの全てで人流が増加している。

(6) クラスターの発生状況について【資料6】

- 時間の都合上、説明を割愛。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料7】

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 資料7へ反映できていないが、11/10に1名の陽性者が確認されている。
 - ✓ この2週間、発生数は低く抑えられており、確認された陽性者についてもしっかりとフォローができている状況である。
 - ✓ 11/11より、国立感染症研究所のメンバーが宮古島に来島し、深掘り調査を行

うこととなっている。

- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 新規陽性者は 10/30 以降確認されておらず、療養者も 11/7 以降 0 人となっている。
 - ✓ 障害者施設で発生したクラスターについては、11/8 に濃厚接触者の健康観察が終了し、11/15 以降、通所事業が再開される予定である。
 - ✓ 比較的落ち着いている状況であるため、現在は第 6 波に向けた検討を実施しているところである。

(8) PCR 検査事業の状況について【資料 8～8-2】

- 総括情報部から、検査事業実績について報告。
 - ✓ エssenシャルワーカー定期 PCR 検査の実績について、11/1～11/5 は、保育施設関係者 171 人が受検した結果、陽性者は確認されなかった。
 - ✓ 安価な PCR 検査補助の実績について、10/29～11/4 は 2,985 人が受検した結果、陽性者 9 人、陽性率 0.30%であった。
 - ✓ 飲食店検査の実績について、10/30～11/5 は 186 人が受検した結果、陽性者は確認されなかった。
 - ✓ モニタリング検査の実績について、10/25～10/31 は、5,274 人が受検した結果、陽性者 2 人、陽性率 0.04%であった。
 - ✓ 学校 PCR 検査の実績については 245 人（7 校）が受検した結果、陽性者は確認陽性者 2 人、陽性率 0.82%であった。
 - ✓ 学校・保育所 PCR 検査の実績について分析したところ、濃厚接触者及びその他の接触者の二次感染率はそれぞれ、1.73%（濃厚接触者）、0.75%（その他の接触者）であった。
 - ✓ また、対象施設のうち学童クラブでの二次感染率が他の施設に比べて高いこと

が確認された。

- ✓ 濃厚接触者以外の接触者においても二次感染の事例が見られることから、学校・保育所等を対象とした PCR 検査は、感染拡大防止に有用であると思われる。
 - ✓ また、基本的な感染防止対策と学校・PCR 検査を実施することにより、感染流行期においても、授業の制限を行わずに済む可能性がある。
- ※ただし、学校行事やクラブ活動の再開による感染の拡大について注視する必要がある。

(9) ワクチン対策チーム進捗状況報告について【資料 9】

- 総括情報部から、住民向けワクチン接種進捗状況等について報告。
 - ✓ 11/9 時点で 1 回目のワクチン接種が完了した人は 1,010,206 人となっており、接種率（県全体）は 68.0%となっている。
 - ✓ 11/9 時点で 2 回目のワクチン接種が完了した人は、972,262 人となっており、接種率（県全体は、65.5%となっている。
 - ✓ 大型ショッピングセンターでの接種について、イオンモールライカム（11/5～11/7）及びサンエー那覇メインプレイス（11/7）でワクチン接種が実施されており、イオンモールライカムで 411 名、サンエー那覇メインプレイスで 143 名がワクチン接種を受けている。

(10) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
 - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、11/1 の週は 1,128 名に検査を行ったところ陽性者は確認されなかった。

- ✓ 那覇空港抗原検査について、11/1 の週は 373 名に検査を行ったところ陽性者は確認されなかった。
- ✓ TACO について、11/1 の週のサーモグラフィー通過者は 169,169 人で、その内発熱者は 0 人であった。
- ✓ RICCA について、11/5 時点の登録者数は 119,612 人となっている。

(1 1) 各部局の取組状況等について【資料 11】

- 文化観光スポーツ部の取組については、報告 (1 2) において説明。

(1 2) おきなわ彩発見キャンペーン (第 4 弾) について

- 文化観光スポーツ部より、おきなわ彩発見キャンペーン (第 4 弾) について報告。

◆ 概要

- ✓ 11/9 (火) 臨時議会にて、おきなわ彩発見キャンペーン (第 4 弾) の補正予算案が可決された。
- ✓ 可決にあたっては、「地域観光事業支援の実施については、離島に最大限配慮し、島をまたぐ旅行の実施時期を一日でも早くすること」との附帯決議がなされた。
- ✓ また、同日、宮里座間味村長 (県離島振興協議会会長)、中山石垣市長から、「島をまたぐ旅行についても、キャンペーン開始と同日の 11/15 から開始するよう強く要請する」との知事宛ての要請書があり、同時に県議会議長あての陳情も受理された。
- ✓ そこで、島を跨ぐ旅行に対するキャンペーンの早期実施について検討したところである。

◆ 前倒しの条件について

- ✓ 島をまたぐ旅行の前倒しの決定にあたっては、疫学統計・解析委員会の分析結

果報告を参考に、11/15 時点の状況を基に評価を行うものとする。

✓ 具体的には、次の①, ②の指標をクリアした場合に前倒しを行うこととする。

①直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数

ア 沖縄本島では 15 人以下であること

イ 宮古・八重山地域では 25 人以下であること

②病床占有率が 45%以下であること

◆ 評価基準の達成状況に基づくスケジュールについて

✓ 評価基準の達成状況に応じて、キャンペーン前倒しのスケジュールを決定する。

①全ての評価基準をクリアした場合

- ・ 11/17 (水) 予約・販売開始
- ・ 11/19 (金) 利用開始 (全体の利用を開始)

②上記の評価基準を一部上回っているが、県全体として感染拡大傾向は見られない場合

- ・ 11/17 (水) 予約・販売開始
- ・ 11/19 (金) 利用は開始するが、基準を達成していない地域については、自治体と調整しながら条件 (例: 同居家族に限定する等) を設けて実施する。

③上記の①, ②に該当しない場合

- ・ 11/17 (水) 予約・販売開始
- ・ 11/26 (金) 全体の利用開始

(13) その他報告事項について

➤ 病院事業局から、県立病院の状況等について報告。

✓ 11/10 時点の県立病院の入院患者数は 0 人となっている。

✓ 宮古病院からは、宮古島では観光客が増えているが、感染拡大の兆候は見られないことから、本土、沖縄本島が安定していれば大きな流行はないと思われるとの報告があった。

✓ 八重山では、11 月に入ってから新規陽性者は発生していないが、八重山病院

では陽性者発生時に備え、11 病床を確保する等の対応を行っているとの報告があった。

(報告 (1) ~ (13) に関する発言等)

- ✓ 11/12より再開が予定されている広域ワクチン接種センターの予約状況について質問があった。

→総括情報部より、11/12~11/14にかけて、1日あたり20人前後のワクチン接種予約があることを報告。

- ✓ ワクチン接種対象者(12歳以上)に限定した場合のワクチン接種率について質問があった。

→総括情報部より、12歳以上のワクチン接種率は、1回目が77.61、2回目が77.42%となっていることを報告。

- ✓ おきなわ彩発見キャンペーンの評価基準について、渡航者で陽性になった者も含めて評価するのか質問があった。

→文化観光スポーツ部より、おきなわ彩発見キャンペーンの評価基準について、人口10万人あたりの新規陽性者数については渡航者を含めず、病床ひっ迫率については渡航者も含めて評価を実施すると説明。

- ✓ 新規陽性者が0人となっている自治体も増えてきたが、一部の自治体では新規陽性者の発生が続いていることから、新規発生があった自治体名を公表し、注意喚起、予防接種の呼びかけを行ってはどうかとの意見があった。

→総括情報部より、毎週、市単位での新規陽性者の発生数を公表していることを説明。※町村については保健所管内の数値にまとめて公表

(1) 年末年始の感染対策のための第3波振り返り(案)について

➤ 総括情報部より、年末年始の感染対策のための第3波振り返り(案)について説明。

◆ 第3波流行拡大の状況について

- ✓ 令和2年10月以降、じわじわと新規感染者数が増加し、12月以降は感染の急拡大が発生した。
- ✓ 1/22が新規陽性者数のピークとなり、1日あたり672人の新規陽性者が確認された。
- ✓ また、元旦から1/15にかけて発症日別感染者数に拡大の山が2回あり、1回目が元日の5日後、2回目が成人式の開催が多かった1/10の5日後であった。
- ✓ 東京、大阪で先行して流行が拡大しており、本県はそこから遅れてピークを迎えた。
- ✓ 1/22を境に新規陽性者数は減少に転じ、2月中旬には1日あたり100人程度まで低下した。

◆ 第3波流行拡大の要因について

- ✓ 年末年始にかけての渡航者・旅行者の増加及び会食の機会の増加が、感染拡大に繋がったと推測される。
- ✓ 成人式、成人式に伴う懇親会等を契機に、当初中南部を中心とした感染が全県的に広まったと推測される。
- ✓ 冬場の換気不足が感染拡大に影響した可能性がある。

◆ 第3波流行に向けた県の対策について

- ✓ R.2.10.26~R.3.1.19にかけて「沖縄コロナ警報」を発出し、少人数の会食の実施や職場での感染防止対策の実施について啓発を実施した。
- ✓ R.2.11.20~R.2.12.11にかけて「年末年始集中実施第1弾」として、感染リスクの高い年末イベント(忘年会等)における感染予防対策について啓発を実施した。

- ✓ R. 2. 12. 12～R. 3. 1. 12 にかけて「年末年始集中実施第2弾」として、年末年始の帰省や年末年始のイベント（クリスマス、正月等）における感染予防対策について啓発を実施した。
- ✓ R. 2. 12. 14～R. 3. 1. 12 にかけて「医療崩壊回避緊急特別対策」として、那覇市、浦添市、沖縄市、名護市（12/23 追加）、宜野湾市（12/23 追加）の飲食店に対し、5時～22 時までの時短営業を要請した。また、県民に対し、帰省の延期の検討、会食時の感染防止対策、成人式式典終了後の宴会の自粛を要請した。
- ✓ R. 3. 1. 8～R. 3. 2. 7 にかけて「感染拡大緊急特別対策」として、那覇市、浦添市、沖縄市、名護市、宜野湾市、宮古島市、石垣市の飲食店に対し、5時～22 時までの時短営業を要請した。また、県民に対し、緊急事態宣言区域などとの不要不急の往来の自粛、感染防止対策の徹底、成人式式典終了後の宴会の自粛、体調不良時の成人式参加の自粛を要請した。
- ✓ R. 3. 1. 20～R. 3. 2. 28 にかけて「沖縄県緊急事態宣言」を発出し、県内の飲食店に対し、5時～22 時までの時短営業を要請した。また、県民に対し、緊急事態宣言区域や離島との不要不急の往来の自粛、感染防止対策の徹底、学校での活動（部活動等）における感染防止対策の実施を要請した。

◆ 各種対策の効果について

- ✓ 飲食店等に対する時短営業の要請により、飲食関係の陽性者は減少した。
- ✓ 非コロナの一般病床使用率を下げることができ、年末年始の救急搬送遅れ等が発生することは回避することができた。
- ✓ 病床占有率及び重症、中等症数についても県が設定した目標を達成することができ、2月末に緊急事態宣言の解除及び県警戒レベルを第3段階に下げることができた。

◆ 今度の年末年始の対策について

- ✓ 前回の年末年始を踏まえ、今度の年末年始の対策について検討が必要である。
- ✓ 県外で感染拡大が確認された場合の対策として、①来訪者へのワクチン接種・PCR検査実施の要請、②国に対する渡航者無料PCR検査の要請、③感染拡大地域への往来についての慎重な検討の要請等を検討する必要がある。
- ✓ 懇親会、忘年会等について、①ワクチン接種者、検査陰性者のみでの実施するよう要請、②大人数、長時間を避けるよう要請、③感染防止対策認証店の拡大及び実効性の担保等について検討する必要がある。
- ✓ 成人式については、①成人式参加者に対するワクチン接種の呼びかけ、②ワクチン未接種者については事前PCR検査受検の呼びかけ、③市町村に対する成人式の分散開催、規模縮小等の感染リスクを下げる取組の要請について検討が必要である。

(議題(1)に関する発言等)

- ✓ 第3波への対策の効果として、飲食関係の陽性者が減少したとあるが、具体的な数値も一緒に示したほうが良いとの意見があった。
→総括情報部より、飲食店関連の感染者数のデータを追加すると回答。
 - ✓ 第3波への対策の効果として、非コロナの一般病床使用率を下げる事ができたとあるが、これは第3波対策の効果と言って差し支えが無いか質問があった
→総括情報部より、第3波対策の目標として、非コロナの一般病床使用率を下げることを掲げてきたこと、実際に年末年始の救急搬送遅れ等が発生しなかったことから記載したことを説明。
- 議題(1) 年末年始の感染対策のための第3波振り返り(案)について検討した結果、内容及びデータの追加等について再検討を行うことを確認した。

4 その他

(1) 新たなレベル分類の考え方について

- 総括情報部より、新たなレベル分類の考え方について報告。
 - ✓ 11/8 に国の新型コロナウイルス感染症対策分科会より、新たなレベル分類の考え方が示された。
 - ✓ 新たな考え方では、これまでの新規陽性者数による評価から、各地域の感染状況や医療逼迫の状況进行评估し、必要な対策を講じる必要があると示されている。
 - ✓ 新たな考え方では、レベルを5つに分類し、安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況（レベル1）を維持するため、①ワクチン接種率の向上、②医療提供体制の強化、③総合的な感染症対策の継続を進める必要があると提言されている。
 - ✓ 今回の新たなレベル分類の考え方の提言を受けて、国の対処方針も変更される予定となっている。
 - ✓ 本県も国の対処方針の変更の内容に合わせて、今後の対策について検討を進める予定である。

4 閉 会